

経済情報：2024年1-3月期の 実質GDP成長率（1次速報値）

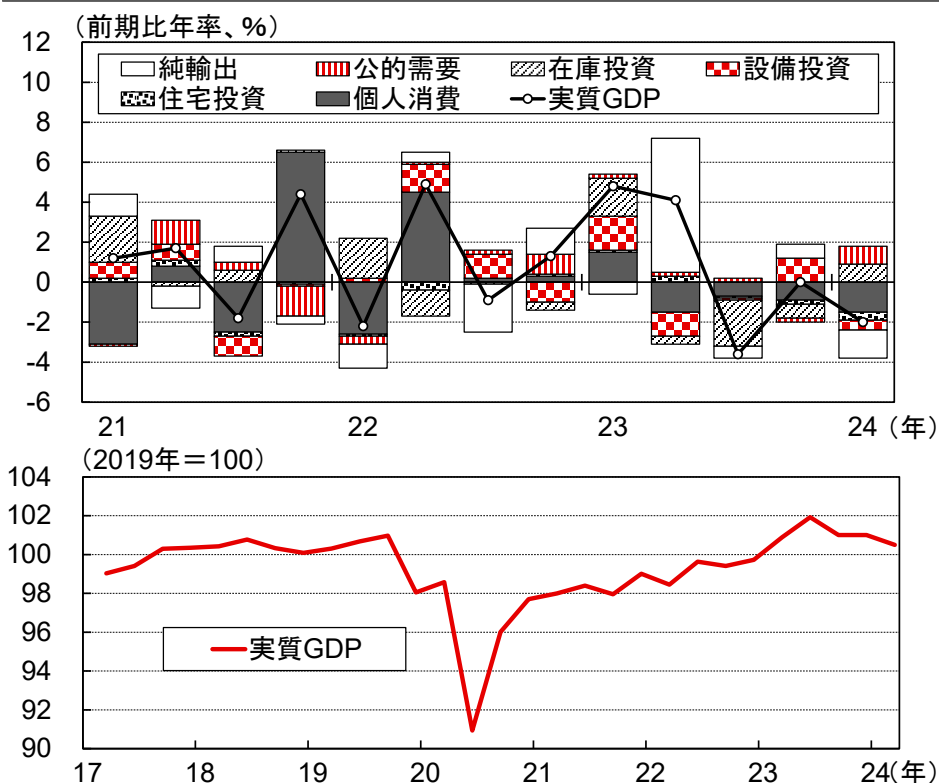
2024年5月16日

三菱UFJ銀行 経営企画部 経済調査室

1. 要旨

- 2024年1-3月期の実質GDP成長率(1次速報値)は前期比年率▲2.0%と2四半期ぶりにマイナス成長。一部自動車メーカーの生産停止が広範に経済活動を下押ししたほか、物価高が個人消費の重石となっている。
- もっとも、自動車生産は既に正常化に転じている。また、今年の春闘では昨年を上回る高い賃上げが実現する見込みであるほか、日銀短観では企業の高い設備投資意欲が示されていることから、先行き、景気は持ち直していくとみる。

実質GDPと最終需要の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

四半期別実質GDPの推移(計数)

(前期比年率、%)

	2023年 7-9月期	2023年 10-12月期	2024年1-3月期(1次速報値)	(寄与度)
実質GDP	▲ 3.6	0.0	▲ 2.0	—
民間需要	▲ 4.1	▲ 0.7	▲ 2.0	(▲ 1.5)
個人消費	▲ 1.2	▲ 1.5	▲ 2.7	(▲ 1.5)
住宅投資	▲ 3.4	▲ 5.3	▲ 9.8	(▲ 0.4)
設備投資	▲ 0.7	7.4	▲ 3.2	(▲ 0.5)
在庫投資	(▲ 2.3)	(▲ 0.7)	—	(0.9)
公的需要	0.7	▲ 0.6	3.3	(0.9)
政府消費	1.1	▲ 0.6	0.8	(0.2)
公共投資	▲ 1.1	▲ 0.6	13.1	(0.7)
純輸出	(▲ 0.6)	(0.7)	—	(▲ 1.4)
輸出	1.3	11.6	▲ 18.7	(▲ 4.5)
輸入	3.7	7.3	▲ 12.8	(3.2)
GDPデフレーター(前期比)	0.8	0.7	0.6	—
名目GDP	▲ 0.6	2.7	0.4	—

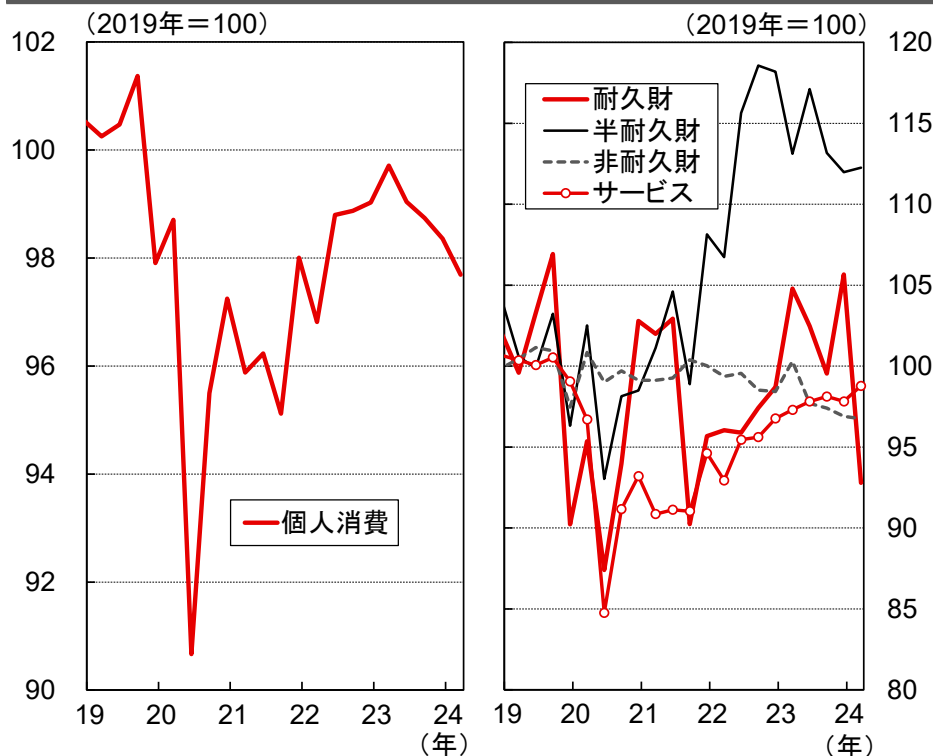
(注)カッコ内は、実質GDPの前期比年率伸び率に対する寄与度。

(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 内需項目

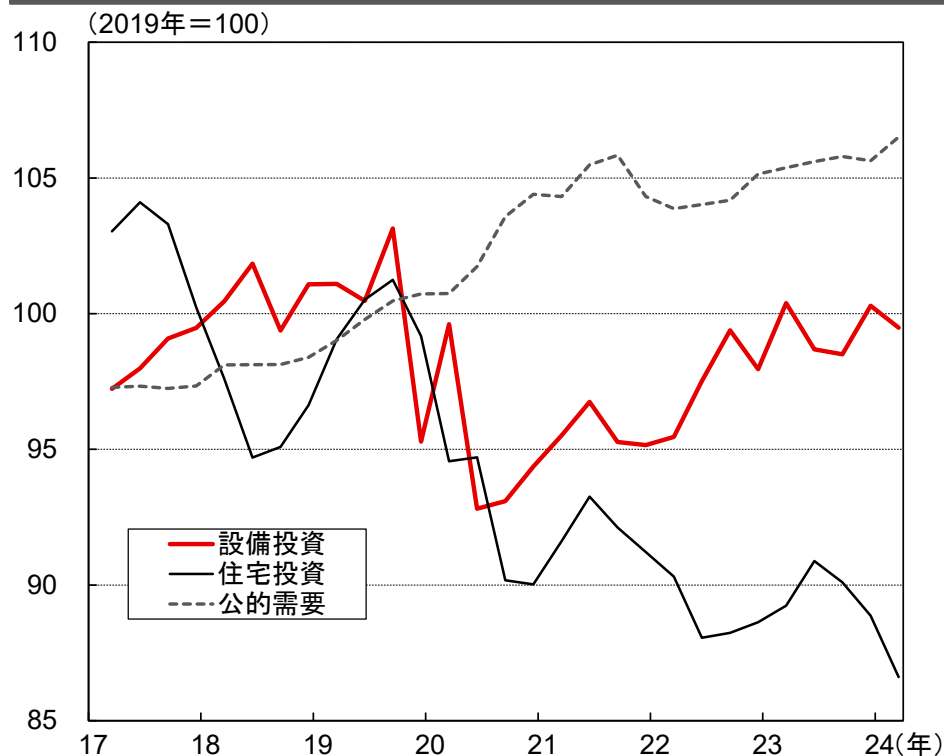
- 個人消費は前期比年率▲2.7%と4四半期連続で減少。一部自動車メーカーの出荷停止により、『耐久財』が大きく減少。また、物価高により『非耐久財』の減少が続いている。
- 設備投資も同▲3.2%と2四半期ぶりに減少。こちらも、一部自動車メーカーの生産停止が影響したとみられる。
- 住宅投資は同▲9.8%と3四半期連続の減少。住宅価格高騰により、低迷が続いている。
- 公的需要は同+3.3%と、公共投資に牽引される形で2四半期ぶりの増加。

実質個人消費、財・サービス別実質個人消費の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

その他の内需項目の推移

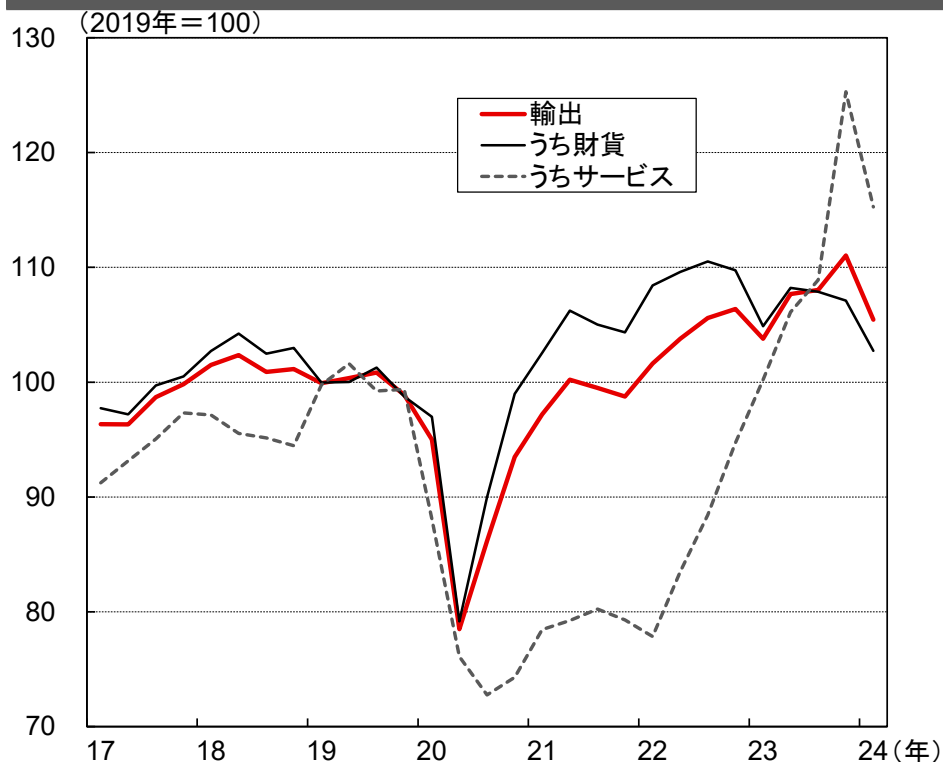


(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 外需項目

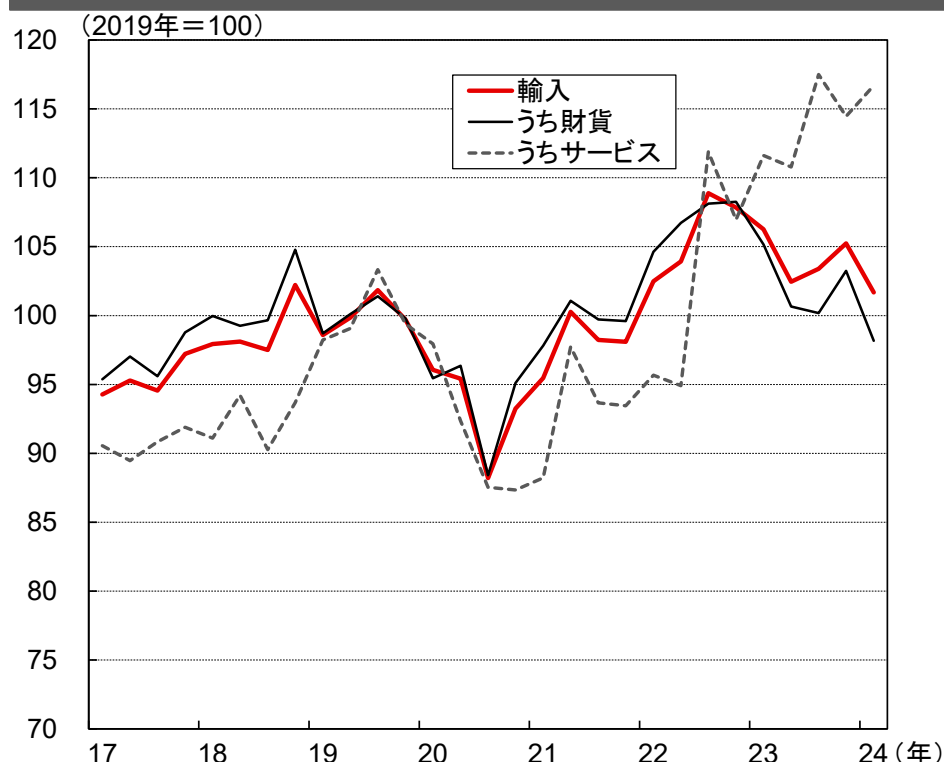
- 輸出は前期比年率▲18.7%と4四半期ぶりに減少。財輸出では自動車が増加したほか、サービス輸出では産業財産権等使用料の受取により前四半期に大きく押し上げられた反動が生じている。
- 輸入は同▲12.8%と、内需が低迷する下で3四半期ぶりの減少。
- 結果として、純輸出(輸出－輸入)の寄与度は同▲1.4%ポイントと2四半期ぶりのマイナスに転じた。

輸出(財・サービス別)の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

輸入(財・サービス別)の推移



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できる
と思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により
保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室
〒100-8388 東京都千代田区丸の内2-7-1

照会先：矢吹 彩 e-mail: sai_yabuki@mufg.jp